

《薬局サーベイランスコメント》

「第2週のインフルエンザの流行規模は薬局サーベイランスが開始されて以降最大！
第3週は更に患者数の増加が予想される」

2015年1月14日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

薬局サーベイランスによると、2015年第2週（1月5日～1月11日）のインフルエンザの推定患者数は1,335,788（約134万人）となり、今シーズンの最高値（第52週、約89万人）を大きく上回りました。加えて2009年第28週に同サーベイランスが開始されて以降でもこれまでの1週間当たりの最多数（2013年第4週、約131万人）をも上回っています。

また、連休明けの1月13日（火曜日）の推定患者数は325,239（約33万人）と前週（第1週）の休日明けの月曜日の値（約27万人）を上回り、かつ1日の推定患者数としては2009年に薬局サーベイランスが開始されて以降の最高値を更新しました。

以上より、今シーズン（2014/2015年シーズン）のインフルエンザの流行は、2015年第2週で既に2009年の薬局サーベイランス開始以降の1週間当たりの推定患者数の最多記録を上回る大きな流行となっていますが、連休明けの1月13日（火曜日）データからは、第3週（1月12日～1月18日）は更にインフルエンザの患者数が増加する可能性が高いです（図1）。

日報

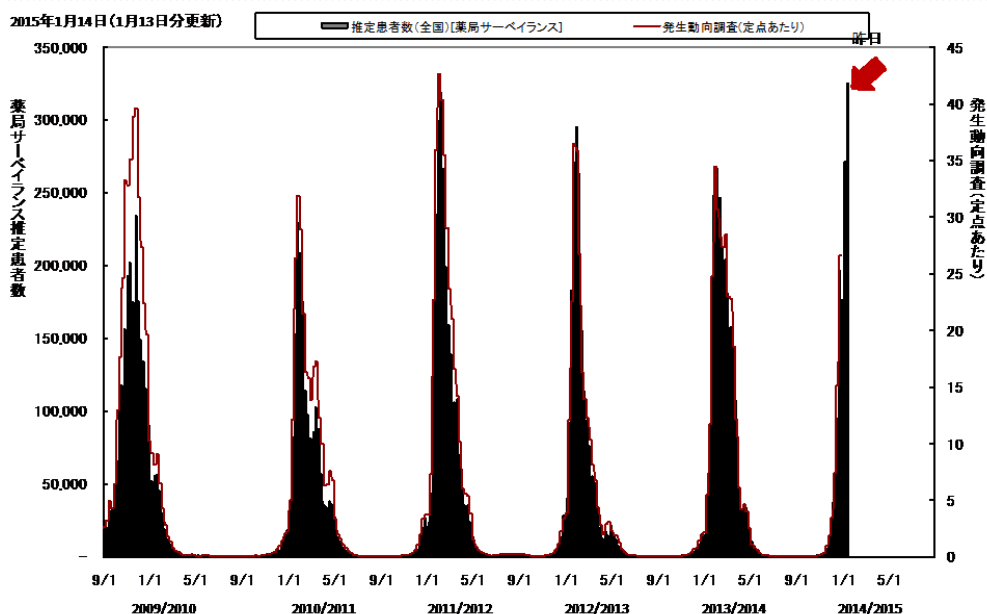


図 1. 薬局サーベイランスによる全国のインフルエンザ推計受診患者数の日別推移

(2009 年 9 月 1 日 ~ 2015 年 1 月 13 日 、
<http://www.syndromic-surveillance.net/kanijasuikei/flu/full/index.html>)

大阪府の第 2 週 1 週間のインフルエンザの推定患者数は 96,303 (約 9 万 6 千人) であり、連休明けの 1 月 13 日 (火曜日) の推定患者数は 1 日で約 2 万 3 千人となり、どちらも今シーズンの最多を記録しました (図 2)。大阪府は既に昨年末より例年の流行のピークに匹敵する流行となっていますが、まだしばらくは患者数の増加が続きそうです。

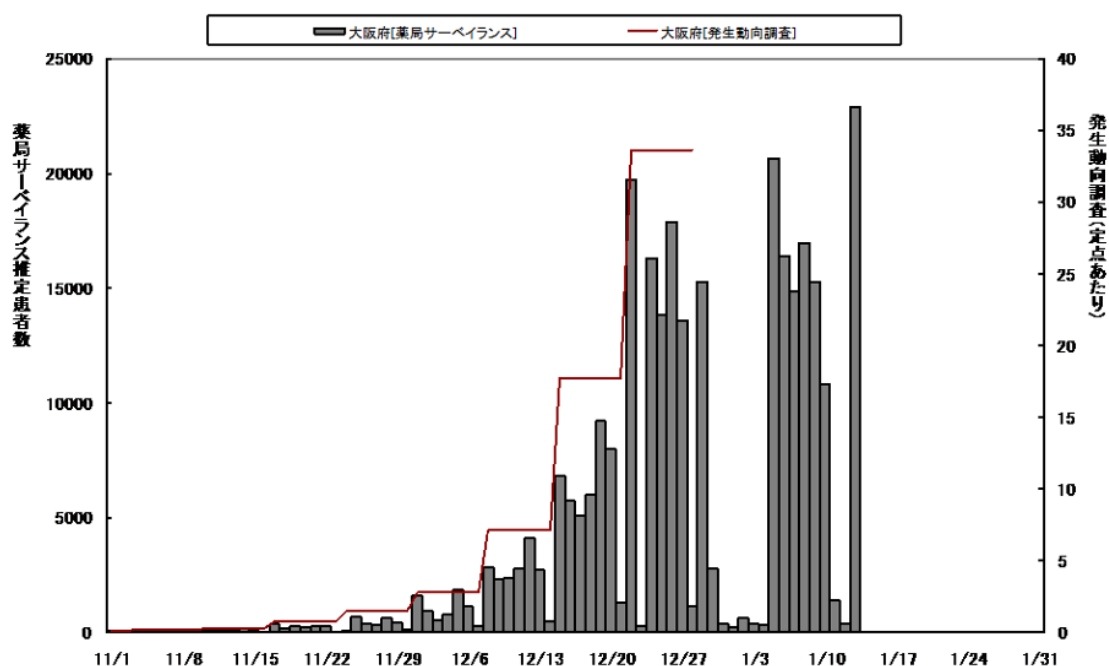


図 2. 薬局サーベイランスによる大阪府のインフルエンザ推計受診患者数の日別推移 (2014 年 11 月 1 日 ~ 2015 年 1 月 13 日 、
http://www.syndromic-surveillance.net/kanijasuikei/flu/2014_15/28_osaka.html)

年齢群別で見ると、学校等が冬季休暇となっていた期間中は 16 歳以上の年齢層の割合が 80%前後を占めていましたが、国内の殆どの地域で新学期が始まって以降は 15 歳以下の年齢層の患者割合が急増して 1 月 13 日現在では 40%近くに達しています。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>) によると、これまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルスは大半が A/H3 (A 香港) 亜型である状態が続いています。

2015年第2週のインフルエンザの流行規模は、2009年に薬局サーベイランスが開始されて以降では最も大きなものとなっていますが、第3週は更に患者数が増加することが予想されます。また、新学期が始まって15歳以下の年齢層の患者数の割合が急増していることや、これまでの季節性インフルエンザの流行例を考慮すると、第4週（1月19日～1月25日）も患者数の増加が続く可能性は低くありません。

今シーズンのインフルエンザの流行規模はかなり大きなものとなる可能性が高く、今後のインフルエンザの流行の推移には警戒が必要です。